

関連学会印象記

第72回 IARS に参加して

瀧田 恒一*

第72回 Clinical and Scientific Congress of the International Anesthesia Research Society (IARS) が、1998年3月7日より5日間、フロリダ州オランダで開催された。ここは、ディズニーワールド、ユニバーサルスタジオ、ケネディ宇宙センターなどがあり、観光地としても有名である。今年の合衆国は異常気象で、通常は暖かいはずのフロリダでも肌寒い日が続いた。また学会前にトルネードの大きな被害が日本でも報道されていたが、学会期間中もオランダ近郊ではトルネードの被害が発生したようである。

学会は Review Course Lecture, Tutorials, Case Conferences, 一般演題, メーカーの展示から構成された。

小児心臓麻酔の Review Course Lecture では、麻酔の技術的な話はほとんどなく、コストの話題が中心であった。コストと関連して早期抜管の重要性が強調された。アメリカ麻酔学会のリフレッシュコースもそうであるが、講師の50分間途切れることのない流れるようなレクチャーには感心させられた。残念ながら時間の制限もあり、Review Course Lecture はこれ1題しか聞けなかった。この他循環器関係では、心疾患患者の非心臓手術の術前評価と麻酔管理、ショックの治療、ペースメーカー等の lecture があった。帰りの飛行機で Review Course Lecture のテキストを読んだが、どれも最新の知見が簡潔にまとめられており、麻酔科研修医の方々には一読をお勧めする。Tutorials では、「全身麻酔 vs 区域麻酔」を聞く機会があった。2人の講師の司会のもと聴衆全体が議論するという形式ですすめられた。それぞれの

話題に興味のある人が集まっているため活発な議論がなされた。また、聴衆の豊富な知識には驚かされた。内容は主に脊椎麻酔、硬膜外麻酔の短所と思われる点（循環動態の変化、局所麻酔薬の神経毒性、血腫の危険性）についての議論が主であった。メーカーの展示は、比較的すいていた様に思われた。目新しかったのは挿管用ラリンジアルマスクで、人形を相手に挿入を試みている姿が目立った。一般演題では551題の発表がポスターディスカッション、ポスタープレゼンテーションの形式でなされた。いくつか見て回ったセッションでは均等に聴衆が入っていた。循環器関係では、特にブームというものはなく演題は幅広い領域にわたっていた。また、モニター部門では、Bispectral Index 等麻酔深度に関係する演題が目についた。Pain 関係では、慢性疼痛やアロデニアに関係する演題で多くの質問が飛んでいた。全体的に日本人の参加者も多く、日本人同士が英語で説明と質問を繰り返している光景も見られた。筆者は、薬理学のセッションで「新生ラットの延髄呼吸中枢でのモルフィンとアセチルコリンの相互作用」についてポスタープレゼンテーションした。筆者の留学中にお世話になったスウェーデン、カロリンスカ病院麻酔科のリンダール教授がこの発表にわざわざ足を運んでくださり感無量であった。このセッションは、専門的な基礎研究が多かったが、演者も聴衆も臨床麻酔科医であるという共通の立場から皆わかりやすく説明してくれた。

内容の豊富な学会のほんの一部であるが、筆者が参加し得たものを中心に印象を述べた。

*北海道大学医学部麻酔学講座